

子どもたちが学び、子どもたちが描いた被爆証言紙芝居

戦いはまだ終わらない

「被爆体験編」17場面 & 「戦後・被爆者運動編」9場面

1988年、金沢市立十一屋小学校6年1組・金森学級は、一人の被爆者から5時間にわたって被爆証言を聞き取り、それを紙芝居で表現するという学習を展開しました。その被爆者の名前は岩佐幹三さん、当時の石川県原爆被災者友の会会長であり、日本の被爆者運動をリードしてこられた方です。

子どもたちの描いた紙芝居が、30年の時を経て、再び動き始めました。広島、長崎原爆被害の惨劇を次代へ継承したいという切実な願いを背負って。



証言者 岩佐 幹三 (日本被団協顧問、石川県原爆被災者友の会初代会長)

文・絵 1988年度 金沢市立十一屋小学校 6年1組 (金森学級)

再構成 「平和の子ら」委員会

判型 26.5×38.2cm 専用ケース付属

「被爆体験編」17場面 / 「戦後・被爆者運動編」9場面

※「被爆体験編」、「戦後・被爆者運動編」セットでの販売となります。バラ売りはできません。

価格

2,000 円

(税込・送料別)

被爆証言紙芝居「戦いはまだ終わらない」注文書

(FAX の場合は、切り取らずそのまま送信。メールの場合は必要事項をご連絡下さい。)

お名前	注文数	セット
住所	〒 -	TEL - () -

<ご注文・お問い合わせ先> 「平和の子ら」委員会 事務局 (川崎 正美)

〒920-2346 石川県白山市河原山町48 TEL 090-2374-8784 FAX 076-255-5232

Eメール dgs-kawa@asagatv.ne.jp

被爆証言紙芝居 「戦いはまだ終わらない」とは

本紙芝居は、1988年(昭和63年)12月、金沢市立十一屋小学校6年1組の授業で行われた、被爆証言を児童が聞き取り、48枚の紙芝居として表現した学習資料を元に、「平和の子ら」委員会が「被爆体験編」17枚、「戦後・被爆者運動編」9枚に再構成したものです。当時、被爆者として子どもたちに被爆体験をお話された岩佐幹三さん、そして当時の十一屋小学校6年1組で学級担任を務めておられた金森俊朗さんをご紹介します。

岩佐さん、金森さんは2020年に相次いで逝去されました。生涯をかけて命と平和の尊さを訴え続けたお二人の遺志を引き継ぎ、核兵器のない平和な社会の実現に向けて、ぜひこの紙芝居をご活用ください。



岩佐 幹三(いわさ みきそう)さん

1929年福岡県福岡市生まれ。1945年8月6日、爆心地から1.2kmにあった広島市富士見町の自宅で被爆。一緒に暮らしていた母と妹を失った。

1953年から金沢大学法学部教官(当時)となり、定年(1994年)まで務める。1960年に石川県原爆被災者友の会創設に尽力し、初代会長を務めた(1994年まで)。その後、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の事務局次長、代表委員等を歴任し、2017年より被団協顧問となる。2020年9月7日逝去。享年91。

金森 俊朗(かなもり としろう)さん

1946年石川県七尾市(旧中島町)生まれ。金沢大学教育学部卒後、小学校教諭となる。1980年代より「いのちの授業」に取り組む。2007年に退職後、北陸学院大学教授となる。いしかわ県民教育文化センター所長、日本生活教育連盟全国委員等としても活躍した。著書は、『太陽の学校』(教育史料出版会、1988年)、『いのちの教科書 学校と家庭で育てたい生きる基礎力』(角川書店、2003年)、他多数。2020年3月2日逝去。享年73。

